

## 【小学校5～6年生】 “好奇心”から危ないことをする子供。その時親は…。

この年頃の子供の行動で、大人が「危ない！」と思うことは何でしょう？

仲間と群れて一緒に行動し、その範囲も広がる年頃です。悪気がなく、好奇心から「親に内緒でゲームソフト購入」「行ってはいけない所で遊ぶ」「アイドルに会いに行く」「SNS で不適切なやりとり」など、問題につながりかねないことや、事件・犯罪に巻き込まれかねないことをしていることもあるでしょう。これがエスカレートすると、集団での好奇心から「肝試しのための万引き」など犯罪に発展してしまうこともあります。

今どきの子供たちの行動範囲は、学校だけでなく、塾やお稽古に通うということもあり、意外と広いのではないかと思います。子供時代に少しの冒険はつきものです。親世代の皆さんも、自分の子ども時代を思い返してください。親には、内緒のちょっと危ない秘密を持っていた方もいらっしゃるかもしれません。多分、好奇心を動かされた子供は、親には内緒のことを多少なりとも抱えていることでしょう。それは成長の過程では大切なプロセスですが、同時にそれは、上に書いたとおり、事故や事件につながったり、問題になりかねない、危ないことである場合も多いものです。

大切なのは、親は子供が困ったときに相談できる関係でいることです。

日頃から子供が話しやすい雰囲気をお母さんが持っていれば、もしも何かマズイことになっていたり、困ったことになりそうな時でも、親に言えるはずですよ。

また、親も子供の様子を見て気付くはずですよ。この年頃は、危なっかしいことに対してまだまだ免疫が少ないので、マズイことが起きているならば、子供の態度がなんとなくいつもと違ってくると思います。そわそわしたり、妙に親を避けたり、コソコソした行動が表れてくるでしょう。そんな時には、いきなり怒ったり、詰問したりしないで、「いつもと何か違うね。何かあった～？」などと声かけをしてください。困ったときに親に何でも言える雰囲気を作っておくことが大切です。日頃から、子供が今、何を見て、何を感じているかを共有していればコミュニケーションは弾むはずですよ。

もし、さりげない会話の中から、危ないことをすることが分かったとしたら、毅然として、「危ない！ 辞めなさい！」と立ちのび、その理由もきちんと伝えてください。メリハリが必要です。

もし子供が何かにつまずき失敗したとしても、失敗から学ぶことができている家庭であれば大丈夫です。いくらでもやり直しはできるし、もし何かに巻き込まれて謝らなくてはならない立場になったとしても、誠意を持って謝ることを一緒に考えてください。それは子供にとっても、親にとっても成長の糧になるはずですよ。

しかし、実際にそんなことに直面したら、時、親としては本音はヒヤヒヤして、生きている心地がしないと思います。問題を自分一人又は両親だけで解決しようとするとう行き詰まります。親だけで問題を抱えずに、信頼できるところに相談することをお勧めします。人生経験を積まれた祖父母や学校、市区町村の相談窓口など、相談に乗ってくれるところはたくさんありますよ。

「ニート・ひきこもりの子をもつ親の会『結』」  
(運営: 認定特定非営利活動法人育て上げネット)

若者の「働く」と「働き続ける」を実現するために、若年無業者就労基礎訓練プログラム「ジョブトレ」など、多方面からの支援を行っている「認定特定非営利活動法人育て上げネット」の活動の一つで、親をサポートするための会。1 か月ごとの定期相談やすぐ実施できる「接し方・伝え方」ワークショップ、親同士の気軽な茶話会などを提供している。



藤田さん

森さん

東京都教育庁「乳幼児期からの子供の教育支援プロジェクト」ホームページ